第 23 回国際科学技術関係大臣会合について

"The 23rd Science and Technology Ministers' Roundtable"

1．日時：令和 8 年（2026 年）10 月 4 日（日）12:00～14:50

2．場所：国立京都国際会館 アネックスホール

3．出席者：世界 24 の国・地域の科学技術大臣等（日本を含む：別紙参照）

4．議長：古川 俊治　内閣府特命担当大臣（科学技術政策担当）

5．テーマ：社会・地政学・技術が交差する転換点における科学技術の社会実装

6．結果概要：

（1） 冒頭、古川大臣から出席者に対し挨拶を行い、世界は気候変動、新興感染症、エネルギー安全保障といった地球規模の課題に直面する一方、地政学的緊張の高まりを背景に、AI、量子、半導体、バイオ・ヘルスケア、宇宙といった先端科学技術は、国家の競争力と安全保障を左右する戦略的資源へと変貌しつつある旨、発言した。そして、本会合においては「社会・地政学・技術が交差する転換点における科学技術の社会実装」をテーマに、各国において科学技術の位置づけがどのように変化したか、科学技術の社会実装を進める上で、どのような国際連携が有効と考えられるかについて、意見交換したい旨を説明した。

（2） 小宮山 STS フォーラム理事長からの挨拶の後、木村科学技術・イノベーション推進事務局統括官より、社会的課題が複雑性を伴って進展しており、科学とビジネスの近接化が加速していること、そして、イノベーションモデルがリニアモデルから「学びながら実践する」モデルへと変化していること、といった本会合のテーマ設定の背景を説明した上で、以下の 3 つの論点を紹介した。

- 社会課題の複雑化と技術革新の急速な進展の中で、各国における科学技術の役割はどのように変化しているか。特に基礎研究の重要性をどう考え、それを支えるためにどのようなアプローチを取っているか。
- 基礎研究から社会実装までの道のりを短縮するには、どのような施策が有効か。データや知見を研究にフィードバックするためには、どのようなエコシステムや官民連携が必要か。
- 研究開発と実装の各段階で国際協力の重要性が増す中、最も効果的なアプローチは何か。

各国・地域はどのような役割や位置づけを描いているか。国際社会と共有できる取組やベストプラクティスはあるか。

（3） 木村統括官による進行の下、本会合のテーマに沿って、各出席者における取組等について発表が行われた後、意見交換が行われた。

- 科学技術の発展は社会の成長や将来を支えるものであり、その基盤となる基礎研究への継続的な支援が不可欠であること
- 研究成果を実社会で活用するには、研究と実装の間にあるギャップを埋めるための制度やエコシステムが必要であること
- AI は研究活動を支援し効率化する可能性がある一方で、誤りも招くため慎重な活用が必要であること
- エネルギー問題も科学技術、経済、社会に密接に関わる重要課題であること
- 若手研究者の育成や柔軟なキャリアパスの整備、そして科学を一般の人々、特に子ども・若者に魅力的に伝える努力が必要であること
- 今後も各国・地域の科学技術担当大臣や科学技術顧問が経験や知見を共有しながら協力を継続することが重要であること

といった意見が共有された。

会合の最後に、宮園総合科学技術・イノベーション会議議員から意見交換の総括が行われた。

(別紙)

第 23 回国際科学技術関係大臣会合出席者一覧
2026 年 10 月 4 日（日）12:00-14:50（日本時間）

No.	国	氏名	役職
1	アンゴラ共和国	アリス・デ・ファティマ・デ・セイタ・イ・アルメイダ	科学・技術・イノベーション担当国務長官
2	アルゼンチン共和国	アドリアナ・バラバーレ	イノベーション・科学技術庁代表
3	ブルガリア共和国	ニコライ・ヴィタノフ	教育・科学省副大臣
4	カナダ	モナ・ネマー	首席科学顧問
5	チリ共和国	ヒメナ・リンコラオ	科学・技術・知識・イノベーション省大臣
6	キプロス共和国	ディメトリス・スクリデス	研究・イノベーション・技術担当首席科学顧問
7	エジプト・アラブ共和国	アブデルアジズ・コンソワ	高等教育・科学研究大臣（文化大臣代行）
8	欧州連合	アンドレアス・シュヴァルツ	エカテリーナ・ザハリエヴァ欧州委員（スタートアップ・研究・イノベーション担当）官房長
9	イラン・イスラム共和国	ホセイン・シマイー・サラフ	科学・研究・技術大臣
10	日本	古川 俊治	内閣府特命担当大臣（科学技術政策担当）
11	カザフスタン共和国	サヤサット・ヌルベク	科学・高等教育大臣
12	リビア	モハメド・イドバイブ	教育・研究大臣
13	ニュージーランド	ジョン・ローチ	首相府・内閣府 首席科学顧問
14	エストニア共和国	クリスティナ・カラス	教育・研究大臣
15	大韓民国	ペ・ギョンフン	副首相兼科学技術情報通信部長官
16	サウジアラビア王国	エイナス・アルイッサ	教育副大臣
17	セネガル共和国	ブバカル・カマラ	高等教育・研究・イノベーション大臣
18	シンガポール共和国	タン・チョール・チュアン	A*STAR（科学技術研究庁）議長
19	スロベニア共和国	ボルト・ロンチェヴィッチ	教育・科学・青年大臣

20	スーダン共和国	アフメド・ムダウィ・ムサ・モハメド	高等教育・科学研究大臣
21	タイ王国	ヨードチャナン・ウォンサワット	副首相兼高等教育・科学・研究・イノベーション大臣
22	ウガンダ共和国	ジョナード・アシイムウェ	大統領府 科学技術・イノベーション事務局大臣
23	アラブ首長国連邦	ハサン・ジャセム・アル・ノワイス	産業・先端技術省次官
24	英国	サー・ジョン・エドマンズ	外務・英連邦・開発省（FCDO） 首席科学顧問兼研究・証拠局長

※氏名・役職名は仮訳